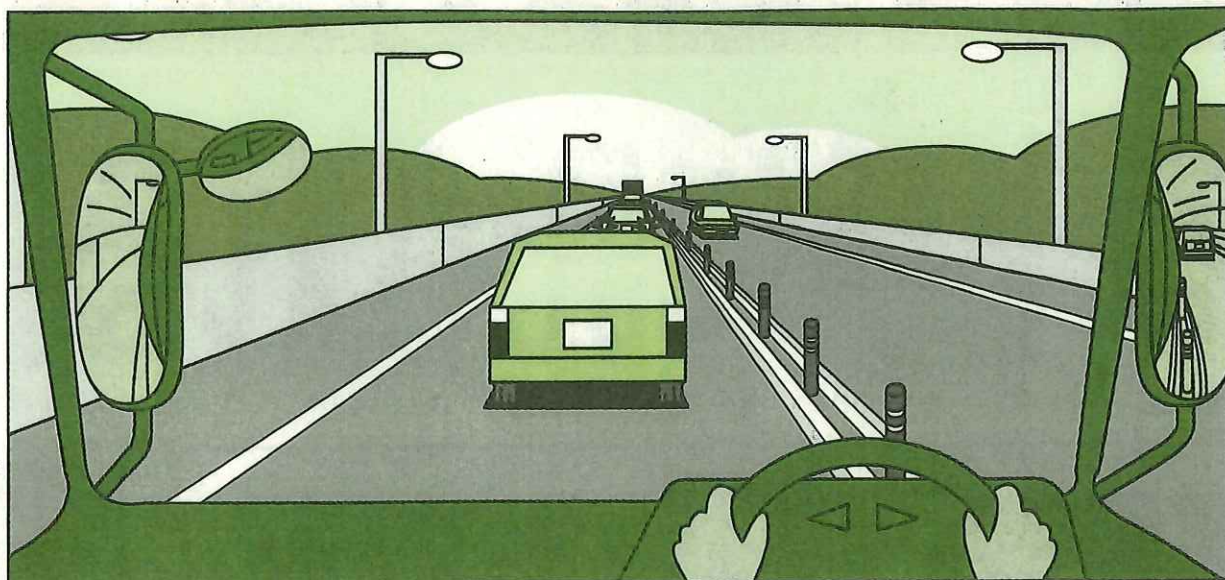


危険予知訓練 (KYT) シート：交通事故防止編 あなたならどうしますか？

〔第 159 回〕「渋滞している高速道路非分離区間」

状況

あなたは、高速道路の非分離区間（対面通行区間）を走行しています。前方には渋滞で停止している車両が見えます。この場面にはどのような危険がありますか。また、危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



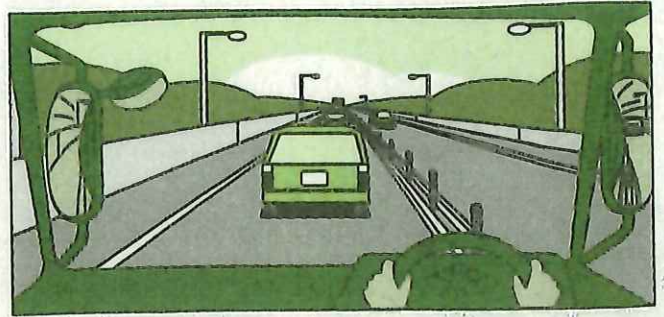
◆どのような危険がありますか？

◆どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

危険予知訓練(KYT)シートの解説

▶ 交通事故防止編

あなたは、高速道路の非分離区間(対面通行区間)を走行しています。前方には渋滞で停止している車両が見えます。この場面にはどのような危険がありますか。また、危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



どのような危険がありますか？

- ①前方の渋滞で減速した前車に追突する危険があります(図1)。
- ②渋滞末尾で停止した前車に気づくのが遅れ追突した場合、玉突き事故の危険があります(図2)。
- ③事故を避けようと慌ててハンドルを切ると、対向車線にはみ出し、対向車と正面衝突する危険があります(図3)。

図1

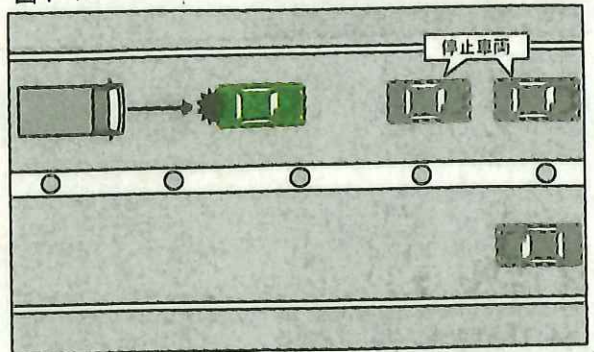


図2

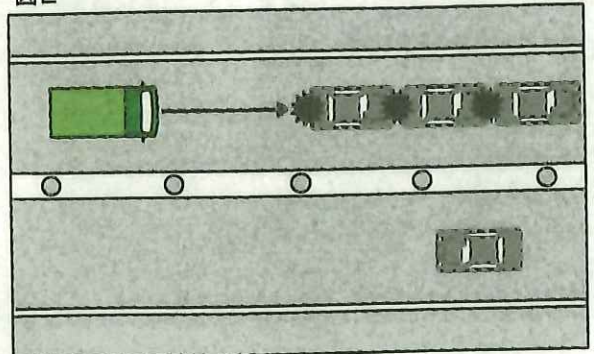
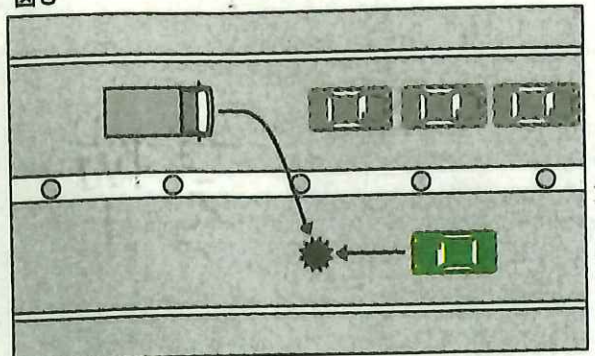


図3



どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

- ①この場面では、前方の渋滞に気づいた前車が減速することが予想できます。漫然と運転していると、対応が遅れて追突する危険が高まります。特に、夏季は帰省や行楽ドライブなどで渋滞が発生しやすい時期です。あらかじめ運行ルート of 渋滞情報をチェックしておくとともに、走行中も掲示板などで渋滞等の交通状況を見落とさないことが大事です。渋滞の情報を確認した時は、あらかじめ前車との車間距離を大きくとっておくとともに、スピードを控えて走行しましょう。
- ②トラックが渋滞車列に突っ込み、多重事故になるケースが後を絶ちません。重量の大きいトラックが関係する多重事故は被害も大きくなり、社会に多大な迷惑をかけることとなります。これは、プロのドライバーとして許されることではありません。渋滞車両への追突事故の主な原因の一つが漫然運転です。夏場は暑さから疲労が蓄積されやすく漫然運転に陥りやすいので、休憩をしっかり取るなどして疲労防止に努めましょう。
- ③高速道路であっても、地形や交通量などの関係から、中央分離帯で分離されていない片側1車線の対面通行区間があります。前車の減速や停止に気づくのが遅れて、慌ててハンドル操作を行うと、対向車線に

はみ出し、対向車と正面衝突する危険があります。このような非分離区間を走行するときは、通常よりも車間距離を大きくとる、スピードを抑えるなど、より慎重な運転を心がけてください。